2022 年 5 月のおでかけ指数

～人流回復続くも、地域間の差が拡大

2022 年 6 月 14 日

公益財団法人九州経済調査協会　事業開発部

九経調 DATASALAD（https://datasalad.jp/）では、景気、産業、社会に関する政府統計に加え、人流や求人等のビッグデータ・オルタナティブデータを、地域の景気や産業の動向を分析する指標として加工、可視化している。

本稿では、当会が提供している人流モニタリングプラットフォーム「おでかけウォッチャー」（https://odekake-watcher.info/）の掲載データ[1]の一部を集約した「おでかけ指数[2]」により、2022 年 5 月における全国の人流動向を分析する。なお、DATASALAD 上では、来訪地側（着地側）と発地側の 2 種類の「おでかけ指数」を公表しているが、本稿では主に来訪地側を取り上げる。

odekake-watcher

1. 全国のおでかけ指数： 6 カ月連続で上昇

2022 年 5 月における全国のおでかけ指数は 64.6 となり、コロナ禍以後で最も高い水準となった（図 1）。前年比＋77.5%と 6 カ月連続で前年を上回り、また 2019 年同月比では▲41.9%と 2021 年 10～12 月頃（新型コロナウイルス感染拡大の第 5 波と第 6 波の間の感染停滞期）と同等の回復水準となった（図 2）。季節性を考慮する必要はあるものの、ゴールデンウィークによる人出増加もあって、回復傾向が継続したといえる。

図 1　おでかけ指数の月次推移（全国）

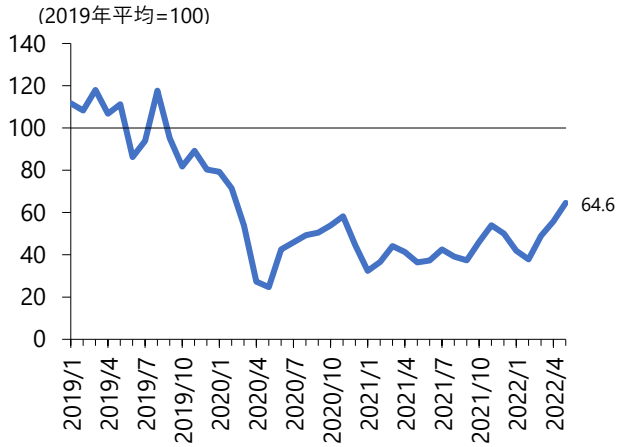
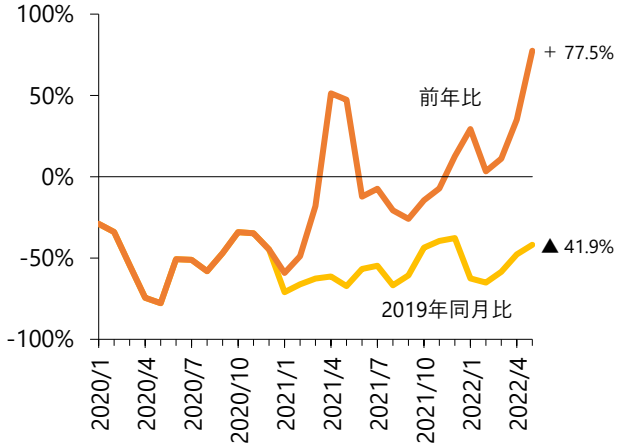


図 2　おでかけ指数前年比・2019 年同月比（全国）



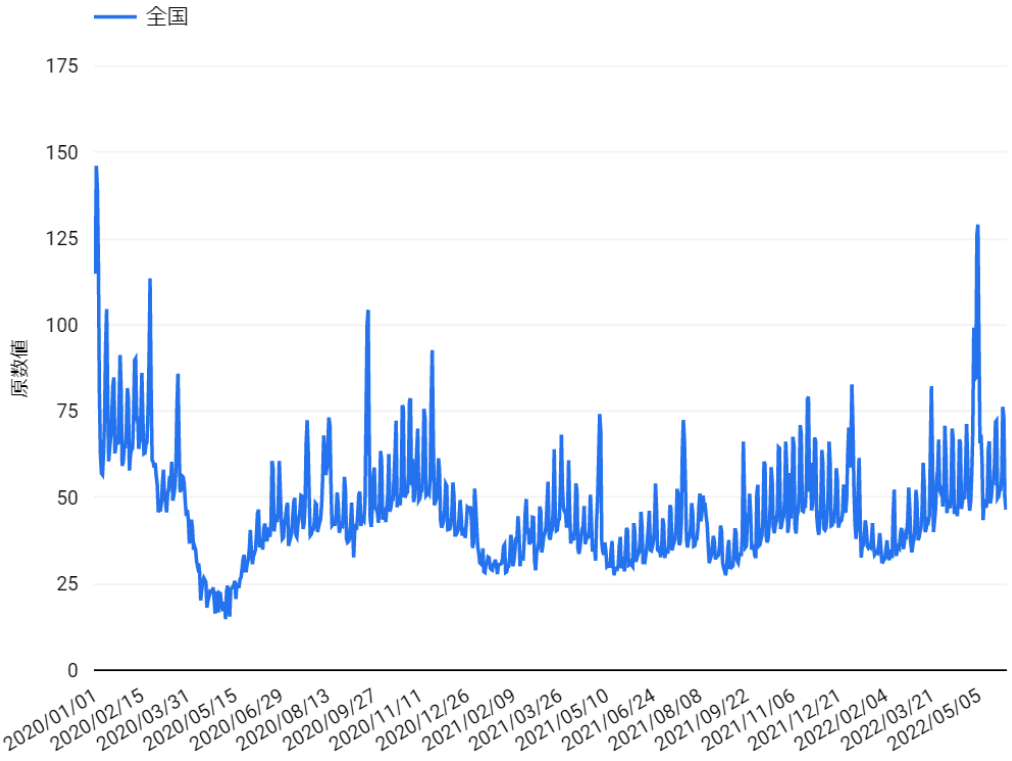
注）2022 年 6 月 5 日までのデータによる推計値　　資料）九経調 DATASALAD

[1] 「おでかけウォッチャー」で提供している位置情報ビッグデータは、株式会社ブログウォッチャーより提供を受けたものであり、承諾を得たユーザー（月間 2,500 万 MAU）のスマートフォンから取得したものである。

[2] おでかけ指数は、新型コロナウイルス感染拡大前である 2019 年の日平均を 100 とした指数である。

全国のおでかけ指数（原数値）の推移を日次でみると、ゴールデンウィーク中に大きく上昇し、5 月 4 日（みどりの日）には 129.1 と、コロナ禍以後で最も高い水準となった。ゴールデンウィーク後には落ち着いているものの、Go To トラベルの後押しがあった 2020 年 10～11 月頃や、第 5～6 波の間で回復が進んだ 2021 年 10～12 月頃と同等程度の水準で推移している。今後は、長期連休以外の時期において安定的な人流回復がみられるかどうかが重要なポイントとなる。

図 2　全国の日次推移（原数値）



資料）九経調 DATASALAD

2. 地域ブロック別のおでかけ指数： 多くの地域でコロナ禍後の最高を更新

2022 年 5 月のおでかけ指数を 12 の地域ブロック別にみると、季節性を考慮する必要はあるものの、近畿と中国を除く 10 地域でコロナ禍後の最高となり、特に甲信越（85.1）や北海道（83.8）など地方圏で高くなった（表 1、表 2）。前年との比較では、第 4 波における緊急事態宣言等の行動制限があった反動から、最低でも前年比＋47.8%（北関東）と、軒並み大きく前年を上回った。コロナ禍前の 2019 年同月との比較では、甲信越で▲30.3%と 3 割減程度まで回復した。一方、南関東では同▲50.2%といまだ半減しているほか、沖縄は同▲45.1%と地方圏のなかで苦戦している。

表 1　地域ブロック別おでかけ指数

地域	2022年5月	前年比	2019年同月比
全国	64.6	＋ 77.5%	▲ 41.9%
北海道	83.8	＋ 84.2%	▲ 32.1%
東北	80.8	＋ 58.7%	▲ 33.8%
北関東	75.8	＋ 47.8%	▲ 38.2%
南関東	51.4	＋ 75.4%	▲ 50.2%
甲信越	85.1	＋ 67.9%	▲ 30.3%
東海	65.8	＋ 60.9%	▲ 40.8%
北陸	81.0	＋ 96.6%	▲ 34.3%
近畿	61.7	＋ 108.4%	▲ 43.4%
中国	77.8	＋ 84.8%	▲ 36.6%
四国	83.2	＋ 94.8%	▲ 34.9%
九州	76.0	＋ 80.5%	▲ 33.9%
沖縄	55.0	＋ 75.7%	▲ 45.1%

注）2022 年 6 月 5 日までのデータによる推計値　　資料）九経調 DATASALAD

表 2　地域ブロック別おでかけ指数　指数・2019 年同月比によるソート

＜指数順＞

順位	地域	2022年5月	前年比	2019年同月比
1	甲信越	85.1	＋ 67.9%	▲ 30.3%
2	北海道	83.8	＋ 84.2%	▲ 32.1%
3	四国	83.2	＋ 94.8%	▲ 34.9%
4	北陸	81.0	＋ 96.6%	▲ 34.3%
5	東北	80.8	＋ 58.7%	▲ 33.8%
6	中国	77.8	＋ 84.8%	▲ 36.6%
7	九州	76.0	＋ 80.5%	▲ 33.9%
8	北関東	75.8	＋ 47.8%	▲ 38.2%
9	東海	65.8	＋ 60.9%	▲ 40.8%
10	近畿	61.7	＋ 108.4%	▲ 43.4%
11	沖縄	55.0	＋ 75.7%	▲ 45.1%
12	南関東	51.4	＋ 75.4%	▲ 50.2%

＜2019 年同月比順＞

順位	地域	2022年5月	前年比	2019年同月比
1	甲信越	85.1	＋ 67.9%	▲ 30.3%
2	北海道	83.8	＋ 84.2%	▲ 32.1%
3	東北	80.8	＋ 58.7%	▲ 33.8%
4	九州	76.0	＋ 80.5%	▲ 33.9%
5	北陸	81.0	＋ 96.6%	▲ 34.3%
6	四国	83.2	＋ 94.8%	▲ 34.9%
7	中国	77.8	＋ 84.8%	▲ 36.6%
8	北関東	75.8	＋ 47.8%	▲ 38.2%
9	東海	65.8	＋ 60.9%	▲ 40.8%
10	近畿	61.7	＋ 108.4%	▲ 43.4%
11	沖縄	55.0	＋ 75.7%	▲ 45.1%
12	南関東	51.4	＋ 75.4%	▲ 50.2%

注）2022 年 6 月 5 日までのデータによる推計値　　資料）九経調 DATASALAD

3. 都道府県別のおでかけ指数：地方圏と大都市部で差が広がる

2022 年 5 月のおでかけ指数を 47 都道府県別にみると、指数の上位には高知県（96.8）、熊本県（90.7）、長野県（90.6）など地方圏が並ぶ（表 3、表 4）。また前月同様、指数の下位には東京都（48.2）、大阪府（52.7）、神奈川県（57.3）など三大都市およびその周辺の都府県や、地方圏のなかで例外的に沖縄県（55.0）が並んでいる。上位・下位とも 2019 年同月比でみても同様の顔ぶれである。上位の県で指数上昇が顕著な一方、下位の都府県では上昇が鈍く、人流回復には地域で大きな差が生じている。大都市部から地方圏へ向かう人流（特に、大型連休時の観光・レジャーや帰省）が増加したのに対し、地方圏から大都市部への人流は引き続き低調であることが示唆される。

表 3　都道府県別おでかけ指数

地域	2022年5月	前年比	2019年同月比	地域	2022年5月	前年比	2019年同月比
全国	64.6	＋ 77.5%	▲ 41.9%	三重県	66.8	＋ 64.9%	▲ 41.8%
北海道	83.8	＋ 84.2%	▲ 32.1%	滋賀県	72.0	＋ 61.8%	▲ 39.5%
青森県	88.5	＋ 62.4%	▲ 31.5%	京都府	68.1	＋ 157.0%	▲ 38.3%
岩手県	88.1	＋ 53.0%	▲ 30.4%	大阪府	52.7	＋ 119.6%	▲ 48.0%
宮城県	70.9	＋ 61.9%	▲ 37.8%	兵庫県	64.1	＋ 104.8%	▲ 43.6%
秋田県	88.6	＋ 56.0%	▲ 33.4%	奈良県	77.7	＋ 66.4%	▲ 37.4%
山形県	85.1	＋ 65.9%	▲ 33.1%	和歌山県	77.9	＋ 62.6%	▲ 37.0%
福島県	77.1	＋ 55.4%	▲ 33.8%	鳥取県	85.1	＋ 74.4%	▲ 38.0%
茨城県	74.3	＋ 37.8%	▲ 37.2%	島根県	86.5	＋ 68.0%	▲ 35.4%
栃木県	77.4	＋ 49.4%	▲ 40.3%	岡山県	69.5	＋ 95.8%	▲ 40.1%
群馬県	76.2	＋ 60.8%	▲ 37.4%	広島県	76.6	＋ 92.5%	▲ 36.2%
埼玉県	57.8	＋ 38.9%	▲ 47.4%	山口県	85.2	＋ 73.9%	▲ 31.9%
千葉県	57.9	＋ 42.3%	▲ 47.5%	徳島県	78.7	＋ 90.6%	▲ 39.1%
東京都	48.2	＋ 96.7%	▲ 52.1%	香川県	76.6	＋ 107.6%	▲ 39.6%
神奈川県	57.3	＋ 57.4%	▲ 46.2%	愛媛県	82.2	＋ 113.5%	▲ 34.7%
新潟県	83.1	＋ 54.2%	▲ 31.0%	高知県	96.8	＋ 67.8%	▲ 26.2%
富山県	89.3	＋ 86.8%	▲ 31.2%	福岡県	68.0	＋ 89.4%	▲ 36.9%
石川県	74.5	＋ 104.1%	▲ 38.2%	佐賀県	73.5	＋ 67.0%	▲ 36.6%
福井県	84.6	＋ 95.8%	▲ 30.3%	長崎県	84.2	＋ 106.4%	▲ 32.5%
山梨県	78.6	＋ 51.7%	▲ 36.9%	熊本県	90.7	＋ 70.2%	▲ 25.7%
長野県	90.6	＋ 92.4%	▲ 25.8%	大分県	86.0	＋ 81.4%	▲ 31.5%
岐阜県	82.8	＋ 67.6%	▲ 31.5%	宮崎県	84.6	＋ 70.9%	▲ 30.7%
静岡県	66.6	＋ 47.3%	▲ 41.6%	鹿児島県	75.4	＋ 62.9%	▲ 35.7%
愛知県	60.9	＋ 69.2%	▲ 42.4%	沖縄県	55.0	＋ 75.7%	▲ 45.1%

注）2022 年 6 月 5 日までのデータによる推計値　　資料）九経調 DATASALAD

表 4　都道府県別おでかけ指数　指数・2019 年同月比によるソート

＜指数順＞

順位	地域	2022年5月	前年比	2019年同月比
1	高知県	96.8	＋ 67.8%	▲ 26.2%
2	熊本県	90.7	＋ 70.2%	▲ 25.7%
3	長野県	90.6	＋ 92.4%	▲ 25.8%
4	富山県	89.3	＋ 86.8%	▲ 31.2%
5	秋田県	88.6	＋ 56.0%	▲ 33.4%
6	青森県	88.5	＋ 62.4%	▲ 31.5%
7	岩手県	88.1	＋ 53.0%	▲ 30.4%
8	島根県	86.5	＋ 68.0%	▲ 35.4%
9	大分県	86.0	＋ 81.4%	▲ 31.5%
10	山口県	85.2	＋ 73.9%	▲ 31.9%
11	山形県	85.1	＋ 65.9%	▲ 33.1%
	鳥取県	85.1	＋ 74.4%	▲ 38.0%
13	福井県	84.6	＋ 95.8%	▲ 30.3%
	宮崎県	84.6	＋ 70.9%	▲ 30.7%
15	長崎県	84.2	＋ 106.4%	▲ 32.5%
16	北海道	83.8	＋ 84.2%	▲ 32.1%
17	新潟県	83.1	＋ 54.2%	▲ 31.0%
18	岐阜県	82.8	＋ 67.6%	▲ 31.5%
19	愛媛県	82.2	＋ 113.5%	▲ 34.7%
20	徳島県	78.7	＋ 90.6%	▲ 39.1%
21	山梨県	78.6	＋ 51.7%	▲ 36.9%
22	和歌山県	77.9	＋ 62.6%	▲ 37.0%
23	奈良県	77.7	＋ 66.4%	▲ 37.4%
24	栃木県	77.4	＋ 49.4%	▲ 40.3%
25	福島県	77.1	＋ 55.4%	▲ 33.8%
26	広島県	76.6	＋ 92.5%	▲ 36.2%
	香川県	76.6	＋ 107.6%	▲ 39.6%
28	群馬県	76.2	＋ 60.8%	▲ 37.4%
29	鹿児島県	75.4	＋ 62.9%	▲ 35.7%
30	石川県	74.5	＋ 104.1%	▲ 38.2%
31	茨城県	74.3	＋ 37.8%	▲ 37.2%
32	佐賀県	73.5	＋ 67.0%	▲ 36.6%
33	滋賀県	72.0	＋ 61.8%	▲ 39.5%
34	宮城県	70.9	＋ 61.9%	▲ 37.8%
35	岡山県	69.5	＋ 95.8%	▲ 40.1%
36	京都府	68.1	＋ 157.0%	▲ 38.3%
37	福岡県	68.0	＋ 89.4%	▲ 36.9%
38	三重県	66.8	＋ 64.9%	▲ 41.8%
39	静岡県	66.6	＋ 47.3%	▲ 41.6%
40	兵庫県	64.1	＋ 104.8%	▲ 43.6%
41	愛知県	60.9	＋ 69.2%	▲ 42.4%
42	千葉県	57.9	＋ 42.3%	▲ 47.5%
43	埼玉県	57.8	＋ 38.9%	▲ 47.4%
44	神奈川県	57.3	＋ 57.4%	▲ 46.2%
45	沖縄県	55.0	＋ 75.7%	▲ 45.1%
46	大阪府	52.7	＋ 119.6%	▲ 48.0%
47	東京都	48.2	＋ 96.7%	▲ 52.1%

＜2019 年同月比順＞

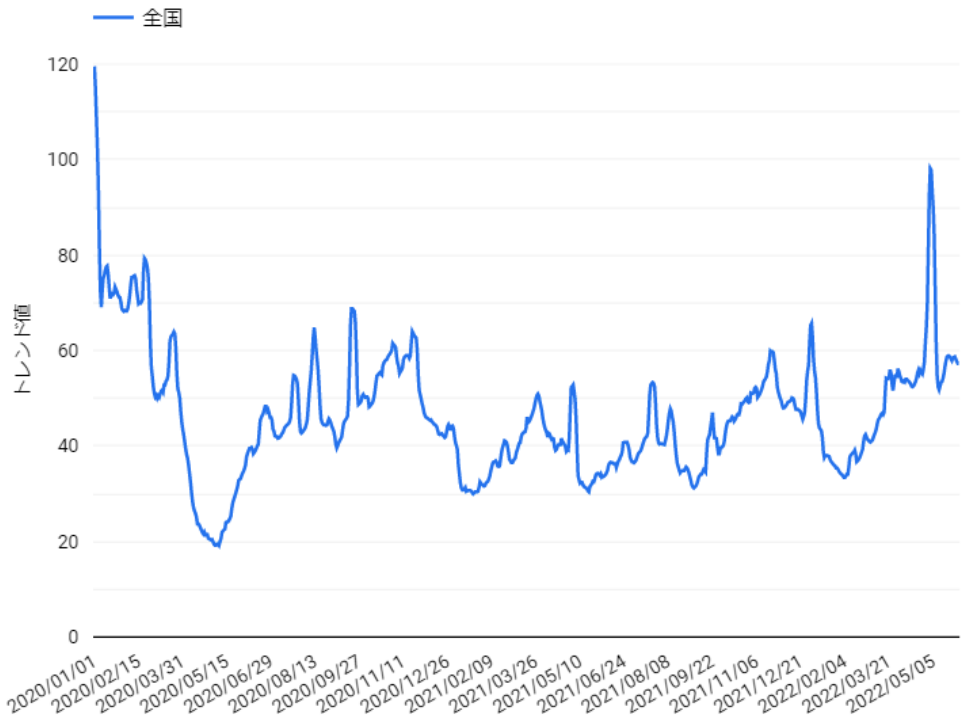
順位	地域	2022年5月	前年比	2019年同月比
1	熊本県	90.7	＋ 70.2%	▲ 25.7%
2	長野県	90.6	＋ 92.4%	▲ 25.8%
3	高知県	96.8	＋ 67.8%	▲ 26.2%
4	福井県	84.6	＋ 95.8%	▲ 30.3%
5	岩手県	88.1	＋ 53.0%	▲ 30.4%
6	宮崎県	84.6	＋ 70.9%	▲ 30.7%
7	新潟県	83.1	＋ 54.2%	▲ 31.0%
8	富山県	89.3	＋ 86.8%	▲ 31.2%
9	岐阜県	82.8	＋ 67.6%	▲ 31.5%
10	大分県	86.0	＋ 81.4%	▲ 31.5%
11	青森県	88.5	＋ 62.4%	▲ 31.5%
12	山口県	85.2	＋ 73.9%	▲ 31.9%
13	北海道	83.8	＋ 84.2%	▲ 32.1%
14	長崎県	84.2	＋ 106.4%	▲ 32.5%
15	山形県	85.1	＋ 65.9%	▲ 33.1%
16	秋田県	88.6	＋ 56.0%	▲ 33.4%
17	福島県	77.1	＋ 55.4%	▲ 33.8%
18	愛媛県	82.2	＋ 113.5%	▲ 34.7%
19	島根県	86.5	＋ 68.0%	▲ 35.4%
20	鹿児島県	75.4	＋ 62.9%	▲ 35.7%
21	広島県	76.6	＋ 92.5%	▲ 36.2%
22	佐賀県	73.5	＋ 67.0%	▲ 36.6%
23	福岡県	68.0	＋ 89.4%	▲ 36.9%
24	山梨県	78.6	＋ 51.7%	▲ 36.9%
25	和歌山県	77.9	＋ 62.6%	▲ 37.0%
26	茨城県	74.3	＋ 37.8%	▲ 37.2%
27	奈良県	77.7	＋ 66.4%	▲ 37.4%
28	群馬県	76.2	＋ 60.8%	▲ 37.4%
29	宮城県	70.9	＋ 61.9%	▲ 37.8%
30	鳥取県	85.1	＋ 74.4%	▲ 38.0%
31	石川県	74.5	＋ 104.1%	▲ 38.2%
32	京都府	68.1	＋ 157.0%	▲ 38.3%
33	徳島県	78.7	＋ 90.6%	▲ 39.1%
34	滋賀県	72.0	＋ 61.8%	▲ 39.5%
35	香川県	76.6	＋ 107.6%	▲ 39.6%
36	岡山県	69.5	＋ 95.8%	▲ 40.1%
37	栃木県	77.4	＋ 49.4%	▲ 40.3%
38	静岡県	66.6	＋ 47.3%	▲ 41.6%
39	三重県	66.8	＋ 64.9%	▲ 41.8%
40	愛知県	60.9	＋ 69.2%	▲ 42.4%
41	兵庫県	64.1	＋ 104.8%	▲ 43.6%
42	沖縄県	55.0	＋ 75.7%	▲ 45.1%
43	神奈川県	57.3	＋ 57.4%	▲ 46.2%
44	埼玉県	57.8	＋ 38.9%	▲ 47.4%
45	千葉県	57.9	＋ 42.3%	▲ 47.5%
46	大阪府	52.7	＋ 119.6%	▲ 48.0%
47	東京都	48.2	＋ 96.7%	▲ 52.1%

注）2022 年 6 月 5 日までのデータによる推計値　　資料）九経調 DATASALAD

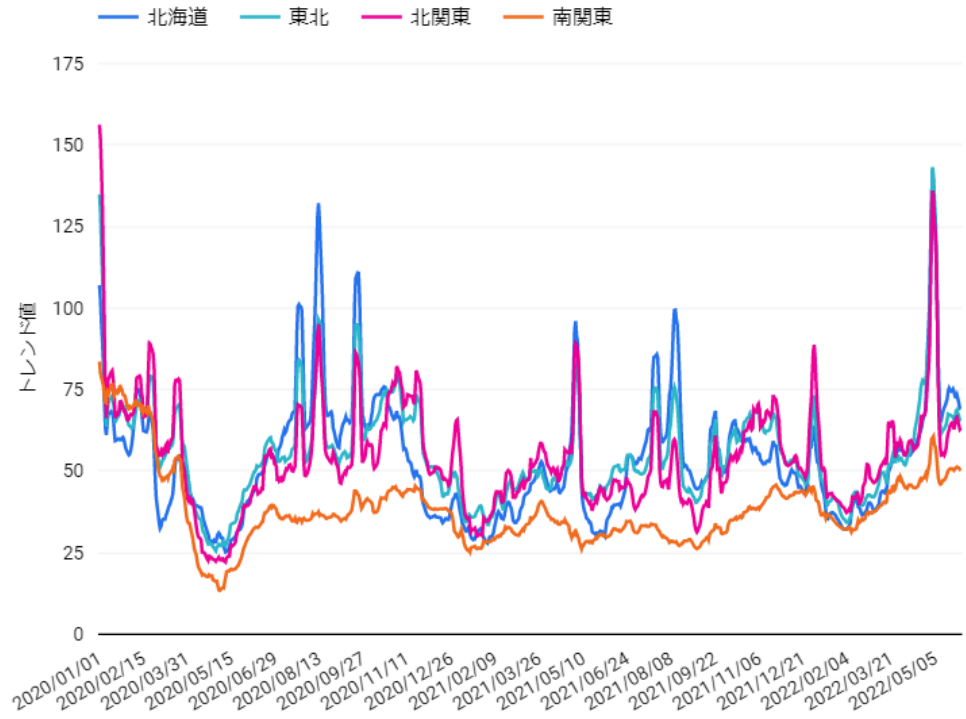
4. 日次推移

図３　地域ブロック別の日次推移（トレンド値）

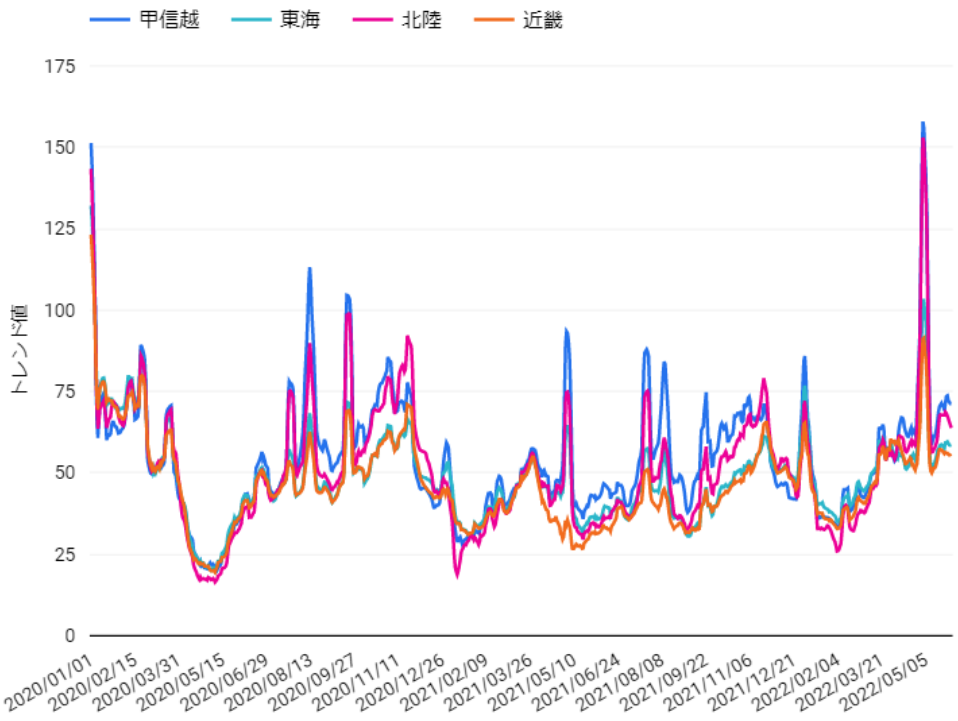
＜全国＞



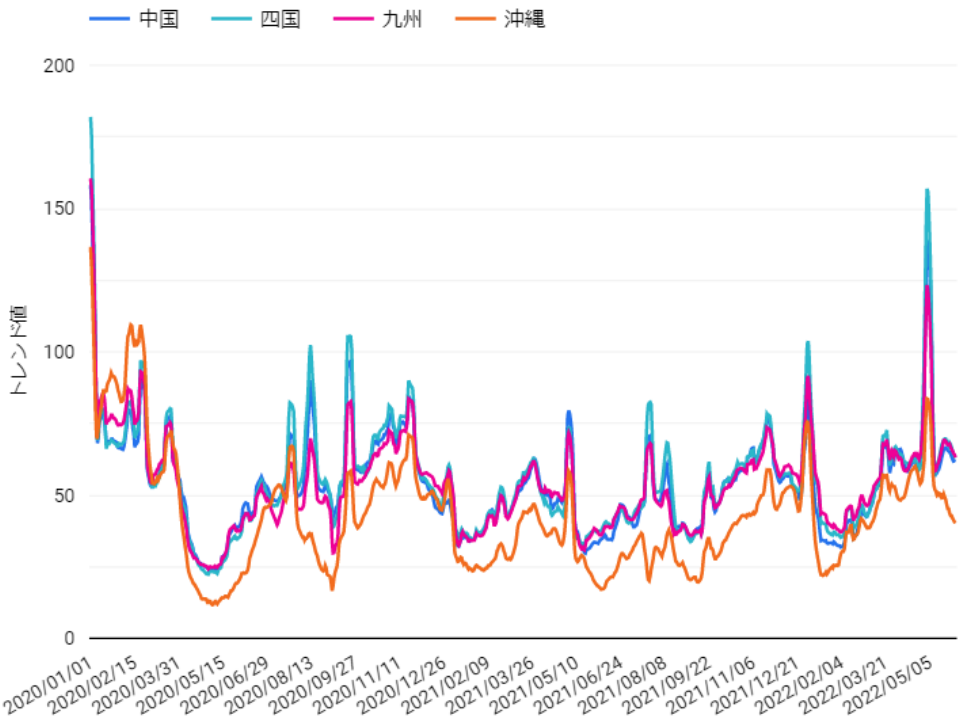
＜北海道～南関東＞



＜甲信越～近畿＞



＜中国～沖縄＞



注）2022 年 6 月 5 日までのデータによる推計値　　資料）九経調 DATASALAD

小柳 真二（事業開発部 主任研究員）
E-mail: skoyanagi@kerc.or.jp

参考：おでかけ指数の定義・算出方法

おでかけ指数は、市区町村別の人流をコロナ禍前の 2019 年を基準に指数化したものである。これを、来訪地側（着地側。ある市区町村への来訪者数）と、発地側（ある市区町村（居住地域とみなされる市区町村）からの出発者数）の双方について算出している。具体的には、以下のようなルールである（試作版のため、今後変更の可能性がある）。

①対象期間、公表時期

来訪地側・発地側とも 2019 年 1 月以降である。おでかけウォッチャー（以下、OW）と同じく、毎週月～日曜日のデータを翌木曜日に公表する。

②モニタリングスポット、市区町村ごとのユニーク化

OW では、各市区町村につき最大 20 地点をモニタリングスポットとして設定し、それらの地点のいずれかを訪れた人数を市区町村別来訪者数として算出している（複数地点を訪れた場合も 1 人とカウント）。来訪地側（着地側）のおでかけ指数で用いるのは、この市区町村別来訪者数である。また発地側は同じデータを発地側で集計した人数を基としている。

OW では各市区町村（基礎自治体）がモニタリングスポットを任意の地点に変更できるサービスとしているが、おでかけ指数ではデータの連続性を保つ観点から、OW のリリース時点（2021 年 10 月）に九経調がデフォルトとして設定したスポット（※）を対象としている。

※各市区町村において来訪者数（2019 年のゴールデンウィークにおける 250m メッシュ別の来訪者数）が上位 20 のメッシュを選定した。ただし、選定の際には、より上位のメッシュと隣接（メッシュ中心間の距離が 500m 以内）するメッシュは除外した

③人流計測の条件

すべての人流が来訪および出発としてカウントされるのではなく、居住地域とみなされる場所から 20km 以上離れた場所で位置情報が一定時間検出された場合、かつそれが通勤・通学のような日常的な訪問地ではない場合という条件がある。

④指数算出地域

②の通り市区町村別にユニーク化した人数を基礎に指数を算出しているため、厳密には市区町村別の指数を参照いただきたい。ただ、より上位スケールの地域間比較等のニーズもあるため、市区町村別の人数を足し上げて都道府県や地域ブロック別の人数を算出し、それをもとにこれらの地域別の指数も公表している。

⑤算出方法

各地域（市区町村や都道府県等）について、2019 年の 1 日当たり平均人数を 100 として、各日の人数を指数化したものを原数値とする。そのうえで、人流には曜日による変動が大きい特徴があり、原数値のままではトレンドをとらえにくいことから、原数値を 7 日間周期のデータとみなし、トレンド成分（中長期的変動）、曜日成分（曜日による変動）、イベント成分（天候やイベント（催事）等による短期的変動。他の 2 つの残差）の 3 つに要因分解を行うことで、トレンド値および曜日調整値を得る。各数値の計算方法・等式は以下の通りである。

原数値 ＝ （各日人数÷2019 年の 1 日当たり平均人数）×100 日次（原数値）

トレンド値 ＝ トレンド成分 ＝ 原数値 － 曜日成分 － イベント成分

曜日調整値 ＝ 原数値 － 曜日成分

⑥一部地域の算出除外

位置情報ビッグデータは個人特定がなされないように抽象化処理がなされたものであり、その過程で閾値未満の人流は秘匿されるため、来訪者数・出発者数のカウントから除外される。したがって、来訪者数・出発者数が毎日計測されていない一部地域（離島等）が存在する。このような地域について⑤のような手法による指数化は、ブレが大きくなるなど必ずしも適切でないため、2019 年において来訪者数・出発者数が計測される日が 180 日未満の自治体については指数を算出しない。